

賛同人メッセージ

朝霧 裕 (シンガーソングライター)

私たち皆が振り被った原発震災。障害を持つ人や高齢者の中には、原発事故の避難途中に、医療不足や体力消耗で亡くなった方も多くいらっしゃいます。亡くなった方々の死を無駄にしない。皆で生きるほうへいく。その為にできること、しよう。

伊藤 恭一 (前埼玉生協連会長)

川内原発再稼働が強行されようとしています。地元住民や国民の意見は一顧だにされず無視されています。「私達の未来は、私達が決める」を原則にすべきです。原発県民投票の意義は大きいと考えます。原発県民投票準備会の皆さんの活動に心からの敬意を表します。

上原 公子 (脱原発をめざす首長会議事務局長・元国立市長)

政府が、集団的自衛権へ舵を切った今、戦争をしてもいない国から日本が攻撃される可能性が出てきました。原発は、一層危険な存在になってきました。だからこそ、主権者である私たちが、生存権をかけて決めるときです。

宇都宮 健児 (弁護士・元日弁連会長)

原発問題は、埼玉県民の命・生存にかかわる重大問題です。県民のことは県民自身が決めていく、これが民主主義社会の基本です。

原発埼玉県民投票運動の成功を祈念しています。

川根 真也 (内部被ばくを考える市民研究会)

原発埼玉県民投票を応援します！東京第一原発事故は東北・関東に放射性物質をまき散らしました。福島県だけでも 103 人の甲状腺がんおよび疑いの子どもたちが見つかっています。原発は未来の子どもたちに残すべきエネルギー源か、私たちの意思を表明しましょう。

轡田 隆史 (ジャーナリスト・元朝日新聞論説委員)

県民投票だなんて言葉はイカメシイけれど、自分のことは自分で決めよう、というわけです。ソバにしようか？ラーメンにしようか？なんて自分で決めているじゃないですか。それと同じです。「神代」からつづく美しい列島を、子孫に伝えるために！

小出 重義 (弁護士・元埼玉弁護士会会長)

生命を守り、生活を維持するという人間の人格権と、電気代が上がるなどということと比較すること自体が、許されないことである(福井地裁差し止め判決)。「原発」を推進したい政府にとって、最大の敵は、自国の良識ある国民です。私達は政府にだまされない手強い国民として原発ノーの一票を投じましょう。

ダニー・ネフセタイ (木工家・原発止めよう秩父人)

この活動の最も難しい事の一つは話を聞いてくれる人に、この署名は原発反対のための署名ではないと伝える事と感じています。伝えようとしても、固定観念で「アッ、原発反対の署名じゃないの？」と言う人がいます。相手が理解するまで説明しましょう。

千葉 麗子 (元「原発」都民投票請求代表・㈱チェリーベイブ代表取締役)

原発都民投票請求代表を務めましたチバレイです、あれ以降東京だけでは無く各地への”無関心からの離脱、自ら考える運動”の拡がりが出てきていることを大変嬉しく思っております。埼玉県民投票の賛同人としても、できる限りの応援をしたいと考えております。

孫崎 享 (元外交官僚)

原発は地震に弱いことは皆、知ったはず。原発は安全でもなく、安くもない。だが、政治家も、官僚も、企業も再稼働しようとしている。日本の社会で、権威ある地位の人々が正しいことを行なう時代は去った。国民ひとり一人の動きが事態を決める時代に入った。

村田 光平 (元スイス大使)

福島を忘れた川内原発の再稼働の動きに象徴される不道徳な日本の現状に、世界は不安を深めております。悪化する福島第一の情勢は世界の安全保障問題なのです。オリンピックどころではありません。日本に良識を取り戻す市民活動の重要性がますます痛感されます。

山木 きょう子 (「原発」都民投票の会共同代表)

埼玉県民投票がスタートしてとても心強く思います。福島の復興もほど遠いのに川内原発再稼働とは！ありえません。市民の声を命を軽んじる今の政治にストップをかけ、私たちが主役の社会を実現するために大きなうねりを作っていきましょう！

横尾 和博 (文芸評論家・ジャーナリスト)

原発埼玉県民投票の実現に向けて、行動されている皆さんに敬意を表します。福島事故以来、わずか3年半で原発事故がなかったかのように振る舞う原子力ムラの連中を許さず、庶民の怒りの1筆を集めて、がんばってください。連帯し応援しています。

私たちも応援しています！

飯田 哲也 (認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所所長)

井戸川 克隆 (前双葉町長)

金子 勝 (立正大学名誉教授)

清水 泉 (生活クラブ生協理事長)

中島 修 (団体役員)

日森 文尋 (元衆議院議員)

マエキタ ミヤコ (サステナ代表)